令和2年度

ちばる地域提案事業のご報告

「仲尾次区の歴史と大椿」紙芝居編集委員会のみなさん

仲尾次区

120年以上続く豊年踊りをはじめとした伝統芸能と、スポーツが盛んな地域。高齢者が元気なことも特徴で、新型コロナウイルス流行以前は、平日は毎朝ゲートボール大会が行われていたほど。

かつて区内に自生し、長い間地域を見守ってきた県指定の名木「大椿（うふつばき）」。10年以上前に枯れてしまったため伐採したが、幹の一部は公民館内に展示されている。

宮城　一喜　区長

事業名	「仲尾次区の歴史と大椿」紙芝居制作事業
事業実施の理由	県指定の名木「大椿（うふつばき）」を基にした紙芝居を通して、区の歴史を知らない子ども達や後世に区の歴史や伝統芸能について伝えたい。
事業の内容	○区の有識者や専門家による紙芝居及び舞台の制作 ○区民への上演会 ○真喜屋小学校への紙芝居1部寄贈

宮城一喜区長・宮城裕子書記のお話

名桜大学の吉川安一先生（名誉教授）が、仲尾次区の「大椿」に興味を持ち、区の歴史などを調べて資料にまとめていただきました。この資料を原作として、子ども達にもわかりやすく伝えることができないかと考え、今回の紙芝居制作事業を提案しました。

公民館内に展示されている
伐採した「大椿」の一部

完成した紙芝居

区の有識者や専門家を集い、紙芝居の編集委員会を立ち上げました。どのようにしたら子ども達に区の歴史をわかりやすく伝えることができるかで一番悩みました。昔からあった大椿に話しかけられるような形であれば、伝わりやすいのかなと思い、話を組み立てていきました。

製作関係者や仲尾次区の子どもたちに上演

本来であれば、完成した紙芝居を真喜屋小学校の体育館で児童たちに上演し、紙芝居を一部贈呈する予定でしたが、コロナ禍のため、公民館にて、制作事業に携わった方々と仲尾次区の小学６年生の児童のみで、上演と贈呈式を行いました。高齢者からも、是非ミニデイなどで上演してほしいという声もあるのですが、100 歳体操の際に披露したのみで、非常に残念に思っています。コロナ禍が明ければ、真喜屋小の全児童に対し上演会を行いたいです。さらに、豊年踊りなどの伝統行事やスポーツ大会を再開することで区全体の活気を取り戻していきたいです。

真喜屋小学校への紙芝居の贈呈式